

湘南鎌倉総合病院 麻酔科専門医研修プログラム（基幹施設）

I. 専門医制度の理念と専門医の使命

1) 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する

2) 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である

麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。

同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う

II. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは神奈川県横須賀・三浦二次医療圏（横三地区）のみならず、周辺地域（神奈川県全域～静岡県東部伊豆方面）の急性期医療を担っている湘南鎌倉総合病院（責任基幹施設）を中心としたプログラムであり、期間中埼玉県立小児医療センター（研修連携施設 B）における小児麻酔の研修を必須とし、地域医療への貢献として共愛会病院（研修連携施設 B）・榛原総合病院（研修連携施設 B）における研修を予定している

本研修プログラムにより専攻医は、整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成でき必要な麻酔知識・技術の習得をするだけでなく、最先端の麻酔科学へのアプローチや地域医療に貢献できる麻酔科専門医となることを目標としている

研修終了後は地域急性期医療の担い手として、神奈川県内の希望する施設に就業できるだけでなく、国内・海外を問わず活躍の場を求めることが可能となる

Ⅲ. 専門研修プログラムの運営方針

麻酔科研修プログラムにおいては、基礎となる麻酔研修を 3 年間で完了し、残りの 1 年で、その周辺領域（サブスペシャリティ）の研修に当てる。

そのサブスペシャリティには、集中治療、ペインクリニック、心臓麻酔があり、集中治療 6 ヶ月、ペインクリニック 3 ヶ月、心臓麻酔 3 ヶ月をそれに当てる

<麻酔研修>

- ◆ 1 - 2 年目は主に湘南鎌倉総合病院または湘南藤沢徳洲会病院にて、脳神経外科、呼吸器外科、帝王切開、小児麻酔を含む一般麻酔の修練を行う

<サブスペシャリティ領域>

- ◆ 3 年目より、特殊な麻酔（心臓大血管麻酔など）や集中治療管理、ペインクリニックなどの経験ができるように、該当施設での 3 - 6 ヶ月の研修を行う
- ◆ 心臓大血管麻酔は、湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢徳洲会病院の基盤 2 施設にて、指導医のもとで十分な研修を行う
- ◆ 小児麻酔は埼玉県立小児医療センターにて 6 ヶ月程度の研修を行う
- ◆ 集中治療管理は、湘南鎌倉総合病院に加えて、自治医科大学附属さいたま医療センターでの研修 6 ヶ月を行う
- ◆ 宇治徳洲会病院、福岡徳洲会病院においてペインクリニック中心の研修を 3 ヶ月の期間で行う
- ◆ 但し、遠方に長く滞在することが難しい場合には、研修の方法として、週 1 - 2 日の出張で
- ◆ 半年または 1 年間という 3 ヶ月相当の研修とみなす方法も選択肢としてある

<プログラム研修における注意事項>

- ◆ 研修の前半 2 年間のうち 1 年間、後半 2 年間のうち 6 ヶ月は、湘南鎌倉総合病院（研修基幹施設）または湘南藤沢徳洲会病院（研修連携施設 A）で研修を行う
- ◆ プログラムに所属する全ての専門医研修の医師の研修進行状況を配慮して、経験目標に必要な一般麻酔の症例数、特殊麻酔症例数を達成でき、またプログラムに掲げる麻酔研修以外の集中治療、ペインクリニックの研修が十分に行われるように、ローテーションを構築する
- ◆ 関連研修施設での研修は、希望によりその期間を決定するが、適時変更が可能

<研修実施計画例>

年間ローテーション表

| | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 |
|-------|----------|---------------------------------|--|---|
| パターンA | 湘南鎌倉総合病院 | 湘南鎌倉総合病院 榛原総合病院 (地域医療3カ月) | 自治医科大学 さいたま医療 センター (集中治療6カ月) 宇治徳洲会病院 (ペイン3カ月) | 埼玉県立 小児医療センター (小児麻酔6カ月) 湘南鎌倉総合病院 |
| パターンB | 湘南鎌倉総合病院 | 湘南鎌倉総合病院 共愛会病院 (地域医療3カ月) | 埼玉県立 小児医療センター (小児麻酔6カ月) 自治医科大学 さいたま医療 センター (集中治療6カ月) | 福岡徳洲会病院 (ペイン3カ月) 湘南藤沢徳洲会病 院 |

※あくまでも、参考ローテーションであり、心臓大血管麻酔を希望される場合など、個々のキャリア形成に合わせた、研修内容でローテーションを行っていきます

<週間予定表>

湘南鎌倉総合病院の場合

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|----|
| 午前 | 手術室 | 手術室 | 手術室 | 休み | 手術室 | 手術室 | 休み |
| 午後 | 手術室 | 手術室 | 手術室 | 休み | 手術室 | 休み | 休み |
| 当直 | | | 当直 | | | | |

IV.研修施設の指導体制

1) 専門研修基幹施設

●湘南鎌倉総合病院

研修プログラム統括責任者：倉橋 清泰

専門研修指導医：倉橋 清泰（麻酔、呼吸生理）

野村 岳志（麻酔、ブロック）

相野田 桂子（麻酔、心臓）
太田 隆嗣（麻酔、心臓）
今西 晶子（麻酔、小児）
菊池 佳奈（麻酔、小児・産科）
中村 優太（麻酔、心臓）

認定病院番号: 1436

特徴：

- 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容で、麻酔研修（一般および特殊麻酔）を 3 年間で終了させることができる。
- 低侵襲カテーテル手術への積極的関与（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）し、循環管理の神髄にふれ、経食道心エコーの修得が容易にできる。
- 緊急手術が豊富で術中管理から術後 ICU 管理まで経験できる。
- 緊急手術への対応を研修し、その一貫した周術期管理の経験を通じて周術期管理の本質を学ぶことができる。

2) 専門研修連携施設 A

●『昭和大学横浜市北部病院』

研修プログラム統括責任者：信太 賢治

専門研修指導医：信太 賢治（麻酔全般・ペインクリニック）
岡本 健一郎（緩和医療・ペインクリニック）
西木戸 修（緩和医療・ペインクリニック）
坂本 篤紀（麻酔全般・心臓麻酔・小児麻酔）
山村 彩（麻酔全般）
釋尾 知春（麻酔全般・経食道心エコー）
高橋 健一（麻酔全般・心臓麻酔・小児麻酔）
道姓 拓也（麻酔全般）
大橋 みどり（麻酔全般）
莊田 博朗（麻酔全般）
津島 佑季子（麻酔全般）
島崎 咲（麻酔全般）

認定病院番号：928

特徴：

- 手術麻酔では外科系各科のバランスのとれた豊富な症例数があるため、当院だけでも麻酔科専門医試験に必要な症例数を担当することができる。
- 病院毎の手術症例の違いやサブスペシャリティ領域としての集中治療やペインクリニックの研修を含めて、昭和大学病院麻酔科を初めとした多彩な連携病院でオーダードのローテーションを行っている。

●『東京女子医科大学病院』

研修プログラム統括責任者：長坂 安子

専門研修指導医：長坂 安子（麻酔）

野村 実（麻酔）

尾崎 恭子（麻酔）

鈴木 康之（麻酔）

黒川 智（麻酔）

笹川 智貴（麻酔、ペインクリニック）

岩出 宗代（麻酔、ペインクリニック）

横川 すみれ（麻酔）

濱田 啓子（麻酔）

庄司 詩保子（麻酔）

土井 健司（麻酔）

石川 高（麻酔）

福島 里沙（麻酔）

長谷川 晴子（麻酔）

衛藤 由佳（麻酔）

山本 偉（麻酔）

認定病院番号：32

特徴：

- 豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修、集中治療・ペインクリニック・緩和の研修も可能。
- 心臓麻酔研修は特に力を入れており、心臓麻酔専門医の取得も可能。
- 多種の臓器移植（心臓・肝臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理,エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応できる。

●『宇治徳洲会病院』

研修プログラム統括責任者：竹田 智浩

専門研修指導医：竹田 智浩（麻酔）

槇尾 真理（麻酔）

清水 優（麻酔）

村川 和重（ペインクリニック）

専門医：佐竹 早紀子（麻酔）

認定病院番号：1258

特徴：

- 当院は救命救急センター（京都府南部で唯一）、地域がん診療連携拠点病院 地域周産

期母子医療センター、脳血管センター（1次脳卒中センターのコア施設）の指定を受けている。

- 緊急手術も多く、特に京都府南部地域で心臓大血管手術管理の件数が最も多いです。また、外傷センター、四肢接合センターの設立、ハイブリッドERなどの設備も整えている。
- ダビインチ手術は、泌尿器科・消化器外科で行っている。
- 硬膜外ブロックをはじめとした神経ブロック症例も豊富に研修ができる。
- 手術の麻酔管理以外に、ペインクリニック（認定施設）の研修も可能。
- サブスペシャリティーは、心臓血管麻酔専門医、集中治療専門医取得が可能。

●『湘南藤沢徳洲会病院』

研修プログラム統括責任者：福井 公哉

専門研修指導医：福井 公哉（臨床麻酔・集中治療・心臓麻酔）

岡崎 薫（臨床麻酔）

今永 和幸（心臓麻酔）

木村 信康（ペインクリニック）

森川 朋子（臨床麻酔、ペインクリニック）

増田 清夏（ペインクリニック）

小澤 寛子（臨床麻酔）

日野 智子（臨床麻酔）

横内 かつみ（臨床麻酔）

増田 義之（臨床麻酔）

小出 史子（臨床麻酔）

専門医：関口 由香里（臨床麻酔）

長谷 知美（心臓麻酔）

村尾 芙美（臨床麻酔）

樋口 裕樹（臨床麻酔）

認定病院番号：879

特徴：

- 救急医療に力を入れている総合病院である。一般的な手術症例は、偏りが少なく、心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔、ロボット支援下手術も経験することができる。
- 神経ブロックなどの区域麻酔も積極的に行っている。手術室外では、経食道心エコー検査に従事しており、経験を積むことができる。
- 集中治療、ペインクリニック研修も配慮することが可能である。

●『名古屋徳洲会総合病院』

研修プログラム統括責任者：赤堀 貴彦

専門研修指導医：赤堀 貴彦（麻醉）

山田 佳奈（麻醉）

畑平 安香（麻醉）

田中 久美子（麻醉）

高柳 博子（麻醉）

加藤 ゆかり（麻醉）

兒玉 絵里（麻醉）

専門医：田中 美緒（麻醉）

小林 加奈（麻醉）

樋上 拓哉（麻醉）

認定病院番号: 1133

特徴：

- 心臓血管麻醉専門医認定施設です。1年間で400件近い心臓外科手術（開心術は約200件）の麻醉管理を行っている。
- ダビンチを使った心臓手術、VAD、インペラ、TAVIなど他施設では経験できない症例もあります。緊急手術が多いのも当院の特徴。
- 心臓手術だけではなく消化器、肝胆膵、食道、肺、外傷、関節、脊椎、ダビンチを使った泌尿器科手術、開頭、血管内治療、口腔外科と多彩な手術の麻醉管理を行っている。
- 耳鼻科、産婦人科はない。

●『東京西徳洲会病院』

研修プログラム統括責任者：工藤 雅響

専門研修指導医：工藤 雅響（麻醉・救急）

野村 まなみ（麻醉・ペイン・緩和）

國澤 卓之（麻醉・ペイン・心臓血管麻醉・小児麻醉）

松岡 康子（麻醉）

秋山 類（麻醉・集中治療・小児）

石橋 茉莉（麻醉）

深田 智子（麻醉、小児麻醉）

渡邊 巖（麻醉、ペイン）

坪谷 有里（麻醉）

認定病院番号：1489

特徴：

- 地域における急性期病院であるため、一般待機手術から心臓血管手術、重症急性腹症など幅広い症例の麻醉管理経験が可能。

●『福岡徳洲会病院』

研修プログラム統括責任者：北川 忠司

専門研修指導医：海江田 令次（麻酔、ペインクリニック）

上田 聡子（麻酔、ペインクリニック）

廣田 一紀（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）

鳴尾 匡司（麻酔）

北川 忠司（麻酔）

瀬戸口 大典（麻酔）

吉野 裕子（麻酔、ペインクリニック）

向江 美智子（麻酔、集中治療）

三根 里絵（麻酔）

認定病院番号：689

特徴：

- 年間 10,000 件を超える救急車を受け入れており、外傷、くも膜下出血、大動脈解離、急性腹症、帝王切開術などの緊急手術症例を数多く経験できる。
- 地域医療支援病院として、地域医療の担い手となる実践的な麻酔科専門医を育成する。

3) 専門研修連携施設 B

●『葉山ハートセンター』

研修プログラム統括責任者：責任者：小田 利通

専門研修指導医：小田 利通（一般麻酔、心臓麻酔、外傷麻酔）

認定病院番号：1097

特徴：

- 心臓血管外科手術と不整脈カテーテル治療を行う専門病院である。
- 最近是不整脈カテーテル治療の麻酔症例が多くあり、麻酔と鎮静のあり方を学ぶことができる。

●『自治医科大学さいたま医療センター』

研修プログラム統括責任者：大塚 祐史

専門研修指導医：大塚 祐史（心臓麻酔、救急医療）

飯塚 悠祐（麻酔、集中治療）

佐藤 和香子（麻酔、ペインクリニック）

松野 由以（麻酔、ペインクリニック）

瀧澤 裕（緩和ケア、ペインクリニック）

仲富 岳（麻酔・医学教育）

宮澤 恵果（小児心臓麻酔）

吉永 晃一（心臓麻酔、集中治療）

専門医：北島 明日香（小児麻酔、産科麻酔）

渡部 洋輔（麻酔、集中治療）

網谷 静香（心臓麻酔）

認定病院番号：961

特徴：

- 手術室では、心臓大血管手術、呼吸器外科手術を数多く経験出来ます。また、重篤な併存症を有する患者の麻酔管理を行う機会も豊富。
- 独立型ICUでは、幅広い疾患の患者管理を経験することが出来ます。特に機械的補助循環（ECMO、IMPELLA、IABP、CRRTなど）の管理、重症呼吸不全の呼吸管理を、数多く経験出来る。
- 救命救急センター、ICU、麻酔科は、密接に連携しており、合同カンファレンスも行われている。

●『埼玉県立小児医療センター』

研修プログラム統括責任者：蔵谷 紀文

専門研修指導医：蔵谷 紀文（麻酔）

佐々木 麻美子（麻酔）

濱屋 和泉（麻酔）

古賀 洋安（麻酔・小児麻酔）

大橋 智（麻酔・小児麻酔）

駒崎 真矢（麻酔・小児麻酔）

石田 佐知（麻酔・小児麻酔）

高田 美沙（麻酔・小児麻酔）

河邊 千佳（麻酔）

坂口 雄一（麻酔）

認定病院番号: 399

特徴：

- 研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。
- 小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンター。
- 小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されている。
- 小児集中治療の研修も可能(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。

●『野崎徳洲会病院』

研修プログラム統括責任者：武富 太郎

専門医：武富 太郎（麻酔）

認定病院番号：1822

特徴：

- 緊急の心臓大血管手術、腸穿孔、くも膜下出血、脊髄損傷などの重症症例が多く、術後管理を含めて周術期管理が学ぶことができる。
- 外科医との距離が非常に近く、コミュニケーションをとりながらストレスなく麻酔・術後管理が学ぶことができる環境が整っている。
- ICU 管理では心臓大血管手術の術後管理、循環不全、呼吸不全（ECMO を含む）、敗血症、代謝性疾患などの内科管理まで幅広い症例を麻酔科が主体となって管理ができる。
- 院内の人工呼吸装着患者の管理を RST（呼吸管理チーム）としておこなっている。院内急変対応、外来を含めた経食道心エコー検査、気管切開などの小手術も麻酔科で行っており、院内横断的な活躍ができる。

●『共愛会病院』

研修プログラム統括責任者：谷口 周平

専門研修指導医：谷口 周平（麻酔）

専門医：坂本 幸基（麻酔）

認定病院番号：1876

特徴：

- 地域にある中規模病院で、消化器・整形外科領域手術を中心とした麻酔管理を経験できる。
- 高齢者症例が多くを占めるため、慢性疾患管理を含めた周術期管理を経験できる。
- 帝王切開術等の産科症例も多く経験することができる。

●『榛原総合病院』

研修プログラム統括責任者：赤池 達正

専門研修指導医：赤池 達正（麻酔全般）

認定病院番号：1327

特徴： 地域唯一の中核病院として地域医療を守る病院である。

●『国際親善総合病院』

研修プログラム統括責任者：佐藤 玲恵

専門研修指導医：佐藤 玲恵（麻酔一般）

岩倉 久幸（麻酔一般）

山田 理恵子（麻酔一般）

藤井 裕人（麻酔全般、集中治療）

専門医：佐藤 玲恵（麻酔一般）

岩倉 久幸（麻酔一般）

山田 理恵子（麻酔一般）

竹島 元（麻酔一般、救急医療）

藤井 裕人（麻酔全般、集中治療）

認定病院番号：787

特徴：

- 地域の中核病院として、一般的な多岐にわたる手術症例がある。
- 病床数に比し、豊富な症例数を経験することができる。
- 他科との連携が良好で、麻酔科医の個性を生かした麻酔をトライできる、

V.募集要項

1) 定員

2名

募集定員は4年間の経験必要症例数が賄える人数とする

複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない

2) 専攻医の採用と問い合わせ先

◆ 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募することとする

◆ 問い合わせ先

湘南鎌倉総合病院 麻酔科専門研修プログラム

麻酔科主任部長 倉橋 清泰

神奈川県鎌倉市岡本 1370-1

TEL：0467-46-1717（代表）

Email：kenshu@shonankamakura.or.jp

<https://recruit.skgh.jp/senior/contact/>

VI.麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

1) 専門研修で得られる成果 (アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる

具体的には 専攻医は専門研修を通じて下記4つの資質を修得した医師となる

- ◆ 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- ◆ 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- ◆ 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- ◆ 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

2) 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた 専門知識 専門技能 学問的姿勢医師としての倫理性と社会性 に関する到達目標を達成する

3) 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた 経験すべき疾患・病態 経験すべき診療・検査 経験すべき麻酔症例 学術活動 の経験目標を達成する

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる

4) 専門研修方法

別途資料

「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた①臨床現場での学習 ②臨床現場を離れた学習 ③自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、度を修得する

5) 専門研修中の年次ごとの知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA-PS 1～2 の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA-PS 3 の患者の周術期管理や ASA-PS 1～2 の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる、また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる

VII.専門研修の評価（自己評価と他者評価）

1) 形成的評価

◆研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される

◆専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し研修実績および到達度評価表指導記録フォーマットによるフィードバックを行う

研修プログラム管理委員会は各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる

2) 総括的評価

研修プログラム管理委員会において専門研修 4 年次の最終月に専攻医研修実績フォーマット研修実績および到達度評価表指導記録フォーマットをもとに研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識 ②専門技能 ③医師として備えるべき学問的姿勢倫理性、社会性適性等を修得したかを総合的に

評価し専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する

VIII.専門プログラム修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標経験すべき症例数を達成し知識技能態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である

各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において研修期間中に行われた形成的評価総括的評価を元に修了判定が行われる

IX.専攻医による専門研修指導医及び研修プログラムに対する評価

専攻医は 毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い研修プログラム管理委員会に提出する

評価を行ったことで専攻医が不利益を被らないように研修プログラム統括責任者は 専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある

研修プログラム統括管理者はこの評価に基づいてすべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する

X.専門研修の休止・中断・研修プログラムの移動

1) 専門研修の休止

- ◆ 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う
- ◆ 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる
- ◆ 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする※休止期間は研修期間に含まれない
- ◆ 研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす
- ◆ 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない
→ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める

2) 専門研修の中断

- ◆ 専攻医が専門研修を中断する場合は 研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする
- ◆ 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断し

た場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる

3) 研修プログラムの移動

専攻医はやむを得ない場合研修期間中に研修プログラムを移動することができる

- ◆ 移動元移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある
- ◆ 麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める

XI.地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には地域医療の中核病院としての湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、国立病院機構横浜医療センターなど幅広い連携施設が入っている

医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、該地域における麻酔診療のニーズを理解する